うるまの意味

珊瑚の島という意味で沖縄の美称である。また、景観の見事な沖縄の島々を示す言葉で、この４市町の海に面した素晴らしい景観を表し、新市が未来へ飛躍することと、美しい沖縄（４市町）の心を世界に発信することを願う。

うるま市民憲章

うるま市は、豊かな自然と先人たちの築きあげた文化と伝統を大切にする、希望にみちた健康都市です。私たちは、このまちを愛し、おたがいの幸せを願い、ここに憲章を定めます。

一　すこやかで、心のかよう家庭と、思いやりのあるまちをつくります。

一　自然を生かし、花とみどりに包まれた、きれいなまちをつくります。

一　きまりを守り、ものを大切にする、住みよいまちをつくります。

一　働くよろこびと、若い力の育つ、元気なまちをつくります。

一　教養を高め、文化のかおり高い、魅力あるまちをつくります。

平成19年3月6日　制定

市章の意味

うるま市の「う」の文字を図案化したもので、赤は太陽、緑は大地、青は海をイメージしている。豊かな自然の輪の中で市民の融和と平和を表現し、金武湾と中城湾に面して発展する「うるま市」の明るい未来と更なる飛躍を象徴する。

うるま市市章　平成 18 年 3 月 1 日制定

うるま市歌　～青雲澄(せいうんす)みて

一、朝日が昇る　金武湾(きんわん)に
世紀の波は　うち寄せて
あやはし照(てら)す　こがね色
肝高満(きむたかみ)ちる　この里(さと)も
青雲澄(す)みて　光さす
ああうるま市に　みどり萌(も)え

二、歴史文化を　偲(しの)びつつ
いちゅいの息吹(いぶき)　共に冴え
みほその里も　誇りなん
生まれし街の　自治の道
共に手をとり　進みゆく
ああうるま市に　花が咲(さ)く

三、離れし島の　美(ちゅ)ら島に
明りをともす　わが街も
共に興(おこ)さん　理想(ゆめ)をもち
平和の鐘は　高鳴りぬ
心と心　通い合う
ああうるま市に　実が栄(は)える

現代版組踊「肝高(きむたか)の阿麻和利(あまわり)」

現代版組踊「肝高の阿麻和利」は、1999年に当時の勝連町教育委員会が、子ども達の感動体験と居場所づくり、ふるさと再発見として子どもと大人が参画する地域おこしを目的に企画されたもので、勝連城10代目城主・「肝高の阿麻和利」の半生を沖縄の伝統芸能「組踊」をベースに、現代音楽とダンスが取り入れられた創作劇です。

2000年3月に阿麻和利の居城であった「勝連城跡」で記念すべき第１回公演が開催されました。当初は１回限りの予定でしたが、再演の要望が強く、その後も世代交代をしながら進化を続け、2003年には東京公演、2008年には夢であった初の海外公演「ハワイ公演」も実現しました。初演以来、公演回数は160回を数え、舞台だけでなく地域づくりの場として県内外から注目を浴びています。